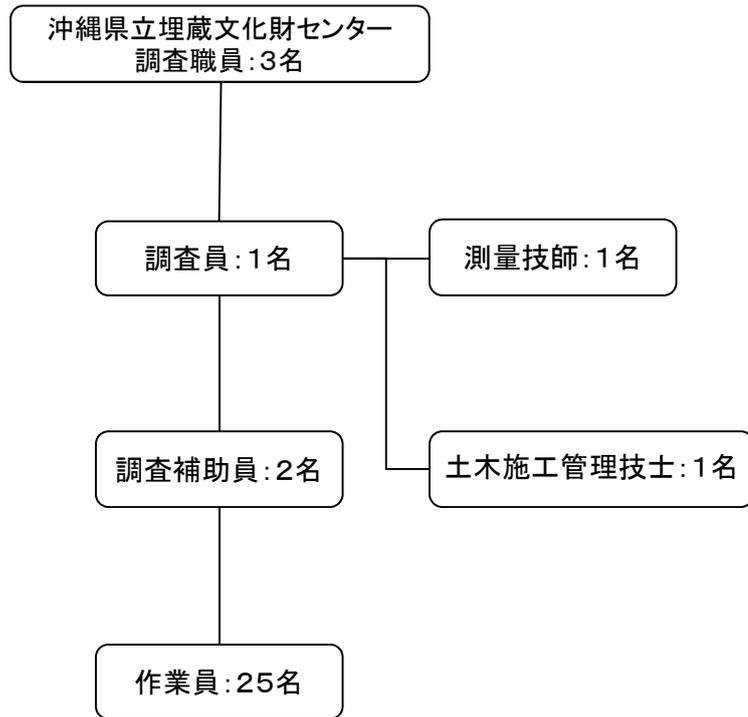


現場説明書

- 業務名称** : 令和6年度 防災危機管理センター棟（仮称）建設に伴う支援業務委託
業務場所 : 沖縄県那覇市泉崎（沖縄県庁敷地内） ※別紙図参照
履行期間 : 契約締結日から令和7年9月30日
業務内容 : 磁気探査、表土掘削、包含層掘削、排土運搬、遺構検出、遺構内埋土掘削、遺物取上げ、記録作成、遺物洗浄、遺物管理・運搬、現場事務所設置、作業員雇用・管理、安全対策・管理等、現地調査に係る支援業務
- 遺跡名** : 湧田村跡、近世包含層（湧田古窯跡の可能性あり）
調査面積 : 約1,000㎡
遺跡の状況 : ○ 表土(造成土)
・ 現況GLより-2.0mまでは開発事業者が掘削するため、本事業はそれ以降の深度より作業を開始する。
・ 土置場は調査区内の他、調査区外に搬出・処分する。
・ アスファルト、コンクリート、パイプ等の移動も含む
・ 土砂、礫、鉄屑、塩ビパイプ、アスファルト、コンクリートは分別する。
○ 文化層1：湧田村跡（近代） 原則は人力掘削
・ 遺物包含層の厚さ（平均）：1.0m
・ 土質：砂質土
・ 遺物密度：標準（1㎡あたり浅コンテナ1箱以上、深コンテナ1箱未満）
・ 遺構密度：密（調査面積の40%以上）
・ 文化層まで重機掘削（平均）：約0.2m
○ 文化層2：遺物包含層（近世） 原則は人力掘削
・ 遺物包含層の厚さ（平均）：0.3m
・ 土質：レキ混じり土
・ 遺物密度：標準（1㎡あたり浅コンテナ1箱以上、深コンテナ1箱未満）
・ 文化層1と文化層2の間に造成層あり（平均厚さ0.5m、重機掘削を想定）
- 磁気探査** : 4回を想定（掘削深度0.5mごとに経層探査）
① 最初に、造成土を重機によって掘削する（平均0.2m）。
② 人力掘削に移行後、GLより-2.0mに達した時点で経層探査を行う。
③ その後、掘削が完了するまで、掘削深度が0.5mに達するごとに経層探査を行う。
- 標準人数等** : 調査日数 人力掘削 168日
総数 1日当たり
① 調査員 168人 1人 ※常駐、他の現場との兼任不可
② 調査補助員 336人 2人 ※常駐、他の現場との兼任不可
③ 作業員 4,200人 25人 ※現場に常駐
④ 測量技師 168人 1人 ※常駐、他の現場との兼任不可
⑤ 土木施工管理技士 168人 1人 ※常駐、他の現場との兼任不可
※ 仕様書の要件を満たす調査員を配置するものとし、調査員としての可否は埋蔵文化財センターが決定する。
※ 上記の人数を標準とするが、現場の状況等に応じて埋蔵文化財センターの事前許可を得た場合は、軽微な増減は可とする。
- 現地調査等** : ・ 埋戻しは行わず、発生土は全て場外処分とする。
・ 調査区は水が湧き出ることが想定されるため、ポンプアップによる水抜きを行い、沈砂池に流し込む。
・ 県庁敷地内で利用できる駐車場は3台分までとし、それを超える場合は受託者において周辺の有料駐車場等を用意すること。
- 調査区全景写真** : 3回（文化層1遺構検出時、同完掘時、調査完掘時）
※立地上の制約により高所作業車が設置できないため、ドローンを用いて行うこと。
- オルソ画像** : 調査区全景写真を撮影した際は、可能な限りオルソ画像作成を行うものとする。また動画撮影を指示する場合がある。
- 調査進捗表** : 遺構調査の進捗を把握するための台帳等を用意し、現場で常時確認できるようにすること。
- 遺構配置図** : 遺構が検出された場合は、その配置図（簡易測量可）を作成すること。
遺構実測図 : 埋蔵文化財センターの調査職員の指示により、手実測もしくは写真測量で行うこと。なお、記載方法は埋蔵文化財センターの図面作成方法を基準とすること。
- 安全管理** : 発掘調査支援業務委託仕様書に基づき、適切に実施すること。

調査体制



現地作業 について	①	作業日時は、原則月～金曜日とし、午前9時から午後4時30分までとする。
	②	作業時間前に、出欠確認及び事前連絡等を終えておくこと。
	③	特別な理由により、現地作業の実施を中止する場合は別途協議する。
申請書類	①	委託者の指示があった場合、その他申請書類等の作成をすること。
その他	①	現場事務所の規模は、埋文センター使用分、業者使用分、遺物及び道具保管庫、作業員休憩所（遺物洗い等の作業ができるスペースを確保すること）を設置し、それぞれ独立させること。また、適切な防犯対策を講じること。
	②	必要に応じて、防塵・防音、通行者等の安全対策等を講じること。
	③	県庁舎内の施設を用いる際は、庁舎内が汚れないよう対策を講じること。

令和6年度 防災危機管理センター棟(仮称)建設に伴う支援業務委託
案内図

